

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 15 日現在

機関番号：14403

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2008～2011

課題番号：20242020

研究課題名（和文） 東欧ロシア史学史研究の総合

研究課題名（英文） Synthesis of East European and Russian Historiographies

研究代表者

渡邊 昭子（WATANABE AKIKO）

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20293144

研究成果の概要（和文）：

東欧ロシア地域の史学史研究の基本文献であるニーデルハウゼルの『東欧ロシア史学史』を全訳するとともに、そこで言及されている 1 万件ほどの東欧ロシア地域の歴史学文献を整理して検索可能にすることにより、当該地域に関する歴史研究のための基礎的情報を提示した。同書は、この地域の歴史叙述がおもに国民史を中心にして形成されてきたことを明らかにするとともに、史学史を比較検討することで国民史の相対化の一方法も示している。本研究ではさらに、歴史叙述の主体や枠組みに注目することにより、このような国民史的歴史叙述を再検討する可能性を示した。

研究成果の概要（英文）：

We laid the groundwork for Russian and East European historical research by translating Emil Niederhauser's *East European Historiography* into Japanese from Hungarian and by creating a bibliographical catalogue with some 10,000 records of all historical literature mentioned in the book. Although Niederhauser's work pointed to national frameworks of the historical writings in this region, it also showed a method of transnational study by comparing national historical writings. Furthermore, to review national historical writings, we discussed the significance of the narrators and the frameworks of historical writings.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	8,300,000	2,490,000	10,790,000
2009 年度	5,700,000	1,710,000	7,410,000
2010 年度	6,200,000	1,860,000	8,060,000
2011 年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
総計	24,700,000	7,410,000	32,100,000

研究分野：東欧史

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード：東欧史・史学史・比較史

1. 研究開始当初の背景

東欧ロシア地域の史学史について、日本においては、いずれかの時代や、地域もしくは国民の枠組みによる研究が少しずつ現れて

きたとはいえ、地域全体の歴史学を俯瞰する研究は乏しかった。東欧ロシア地域の歴史家や歴史叙述に関する基本的情報すらも得ることが難しい場合があった。

現地の研究で、東欧ロシア地域の歴史叙述の変容について長期的・広域的視点から見たものとしては、まず、チェコのマツレークによる『ヨーロッパ東部の歴史』(1946年)を挙げることができる。ブルノ大学教授だったマツレークのこの著作は、18世紀以前の歴史叙述について文化的影響力を持つ帝国ごとに論じ、19世紀以降は国民別に叙述する。およそ50年後に著されたのが、ハンガリーのニーデルハウゼンによる『東欧ロシア史学史』(1995年)である。著者は幅広い言語的知識を駆使し、国民単位で歴史叙述の歴史を検討し、この地域に共通する歴史認識を考察した。この著作は、東欧ロシアの歴史叙述を統合的に分析することの有効性を示唆している点で、本研究計画を着想する重要な契機となった。この著作を基に東欧ロシア地域の史学史に関する基礎研究を提示し、さらに、同書を批判的に検討することによって、国民史に基づく歴史認識枠組みを再検討することができると思ったことから本研究が始まった。

2. 研究の目的

本研究の目的は次の二点である。第一に、東欧ロシア地域の史学史に関する基盤研究を提供することである。第二に、東欧ロシアの諸地域および地域全体に関する歴史認識枠組みの変化を比較検討することにより、従来の国民史的歴史学を克服し、当該地域の新しい歴史像を創造するための方法を模索することである。

具体的には、『東欧ロシア史学史』を読み進めて各地域の史学史を検討するとともに、東欧ロシア地域の史学史文献を収集して整理し、それらを比較対照することによって、同地域の史学史を総合的に俯瞰すること、そしてそこから新たな研究視角を提示することを目指した。

3. 研究の方法

研究参加者は、それぞれの専門分野および地域に関する研究を進めるなかで、研究史とくに注目して、文献を渉猟した。並行して、章ごとに担当を決め、『東欧ロシア史学史』を読み進めた。同書は多くの歴史学の文献に言及しているが、それぞれの現地語による書誌情報は記されていないため、同書で言及されている文献について個々に調査した。この文献調査については、各地域の歴史の専門家に調査を依頼し、調査結果を同書の訳文に組み込んでいった。期間中、定期的に研究会を開催し、以上の調査および検討の成果を報告して参加者全員で共有し、協力者の助言も得つつ、さらなる研究の進め方について議論した。

4. 研究成果

研究参加者は、それぞれの専門分野に関する研究史を調査して明らかにした。それにより、『東欧ロシア史学史』が基本的かつきわめて重要な文献であることを確認した。このため同書を全訳するとともに、調査した文献情報を整理して訳文に組み込んだ。情報を整理した文献は1万点に上る。この本文は『総覧 東欧ロシア史学史』として冊子体にし、また、文献リスト、東欧ロシア地域の歴史家を中心とした2800人ほどの人名リスト、地名リスト、そして東欧ロシア各地域の文献調査案内を電子化してCDに収めて添付し、報告書を作成した。このうち文献リストについては、後述のURLにおいて公開し、世界各地から東欧ロシア史学史文献の検索ができるようにした。このように本研究の成果が公開されたことにより、東欧ロシア地域の研究に多くの基本的かつ重要な情報をもたらすことができた。

『東欧ロシア史学史』では、当該地域の歴史叙述がおもに国民史を中心に扱ってきたことを指摘している。しかしながら、それと同時に本書は東欧ロシアの諸地域および地域全体に関する歴史認識枠組みの変化を比較検討するものであり、従来の国民史での歴史叙述を相対化しようとするものである。これを踏まえたうえで、研究会では、国民史的歴史叙述、さらには国民史的史学史叙述を乗り越えるための議論が行なわれた。各国民史の歴史が比較可能であり、相違や類似性に着目する視点が必要であることを確認し、さらに、歴史叙述の様々な主体に注目することにより、国民史にとらわれない枠組みで歴史を研究し叙述する可能性や、社会主義体制という東欧ロシア地域が共有した経験のなかで歴史学を研究する可能性が検討された。以上の成果について、期間終了後の2012年5月にシンポジウムを開催し、総合的に議論する場を設けることを決定した。

本研究を進めるなかで、東欧ロシアの各地域を研究対象とする研究者と活発な議論を繰り広げてきた。さらに、ニーデルハウゼン氏をはじめとするハンガリー史学界、そして協力者を通じて他の東欧地域の研究者とも意見や情報を交換してきた。このように研究者間の交流を促し、概念の整理や各地の研究に関する情報の交換を促すことができたことも本研究の成果である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

①家田修、ニーデルハウゼン・エミル先生と日本の東欧研究者、東欧史研究、34号、2012年、査読無

②三苦民雄、閉じられた社会と開かれた社会、留学生別科紀要、4号、49-60頁、2012年、査読無

③山本明代、第二次世界大戦後ハンガリーにおける住民交換と強制移住-ドナウ川以西地域を中心に-、東中欧・バルカン地域における職能集団をめぐるインターカルチュラル圏の形成と変容、2号、13-23頁、2012年、査読無

④戸谷浩、二つのシステムの交わる所の相貌：近世ハンガリーの社会経済史的な位置、西洋史論争、33号、29-33頁、2011年、査読無

⑤三苦民雄、もう一つの正義-旧約の神-、留学生別科紀要、3号、27-34頁、2011年、査読無

⑥姉川雄大、二重君主国期ハンガリーにおける体育と自由主義ナショナリズム-育てるべき市民の道徳と軍事化-、東欧史研究、33号、3-23頁、2011年、査読有

⑦渡邊昭子、近代ハンガリーにおける国民的料理の誕生、歴史研究、48号、29-70頁、2011年、査読無

⑧戸谷浩、歴史遺産としてのドナウと、Pars pro toto 論：エステルハージ・ペーテル著（早稲田みか訳）『ハーン=ハーン伯爵夫人のまなざし-ドナウを下って-』、国際学研究（明治学院大学）、39号、137-142頁、2011年、査読無

⑨Osamu Ieda, *Integrated environmental policy from a regional perspective in Slavic Eurasia*, Forum on Public Policy, no. 3, pp. 1-9, 2010, 査読有

〔学会発表〕（計7件）

①平田武、民主化・市民社会・中欧論から20年-東中欧比較政治研究の認識枠組み-、ロシア・東欧学会 JSSEES 2011 年度合同研究大会、2011年10月22日、東京国際大学

②飯尾唯紀、近世ハンガリー王国再統合期における所領と教会、2011年度西洋史研究会大会（共催：ヨーロッパ近世史研究会）、2011年11月13日、立教大学

③AKIYAMA Shingo, A magyar-kutatás múltja és jelene Japánban, Japán-Magyar Balkán kutatócsoport, 2010年9月2日、ペーチ大学

④SUZUKI Hirokazu, Török-kép az értelmiség körében a koraújkor Magyarországon, Japán-Magyar Balkán kutatócsoport, 2010年9月3日、ペーチ大学

⑤TOYA Hiroshi, A Militärgrenze jellegének változása az újkor Magyarországon, Japán-Magyar Balkán kutatócsoport, 2010年9月3日、ペーチ大学

⑥YAMAMOTO Akiyo, A pécsi tímárok és céhük

a 18. században, Japán-Magyar Balkán kutatócsoport, 2010年9月3日、ペーチ大学

⑦渡邊昭子、異宗派間の婚姻-19世紀ハンガリーにおける制度・議論・実態、東欧史研究会・ハブスブルク史研究会、2009年10月10日、聖心女子大学

〔図書〕（計5件）

①三苦民雄、ふくろう出版、人びとのかたち-比較文化論十二講、2011年、164頁

②平田武、北海道大学出版会、ポスト社会主義期の政治と経済：旧ソ連・中東欧の比較、2011年、19-48頁

③秋山晋吾、青木書店、由緒の比較史、2010年、381-405頁

④山本明代、風媒社、反響する文学、2010年、113-145頁

⑤土肥恒之、日本エディタースクール出版部、ロシア社会史の世界、2010年、363頁

⑥平田武、北海道大学スラブ研究センター、体制転換の先端的議論、2010年、21-62頁

⑦三苦民雄、日本出版制作センター、法と道徳-正義のありか、2009年、191頁

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.osaka-kyoiku.ac.jp/~nabeaki/a/Welcome.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

渡邊 昭子 (WATANABE AKIKO)

大阪教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20293144

(2)研究分担者

- ・戸谷 浩 (TOYA HIROSHI)
明治学院大学・国際学部・教授
研究者番号：00255621
- ・鈴木 広和 (SUZUKI HIROKAZU)
大阪大学・人間科学研究科・准教授
研究者番号：80273738
- ・家田 修 (IEDA OSAMU)
北海道大学・スラブ研究センター・教授
研究者番号：20184369
- ・平田 武 (HIRATA TAKESHI)
東北大学・法学研究科・教授
研究者番号：90238361
- ・三苫 民雄 (MITOMA TAMIO)
愛知産業大学短期大学・通信教育部国際コ
ミュニケーション学科・教授
研究者番号：60352902
- ・山本 明代 (YAMAMOTO AKIYO)
名古屋市立大学・人間文化研究科・准教授
研究者番号：70363950
- ・秋山 晋吾 (AKIYAMA SHINGO)
一橋大学・社会学研究科・准教授
研究者番号：50466421
- ・姉川 雄大 (ANEGAWA YUDAI)
千葉大学・人文社会科学研究科・特別研究
員
研究者番号：00554304
- ・飯尾 唯紀 (IIO TADAKI)
城西大学・語学教育センター・助教
研究者番号：80431352

(3)連携研究者

- 土肥 恒之 (DOHI TSUNEYUKI)
研究者番号：20108426